



●住宅の建て替えと建築ごみ

昨年から今年にかけて、町内のあちこちで住宅の建て替えが進められています。大きな屋敷が解体され、複数の新築住宅に更新され、発生する相当な量の建築廃材や建築残材が市外に運び出されています。市内で処分できないことに心が痛み、極力減らしたいものです。解体時に古材が再使用されることは望ましいですが、大半は粉碎され処分または再利用されます。昨年、竣工寸前で解体された3件の新築住宅があり、柱や壁の木材からサッシやガラスまで無残に破壊されました。建築ごみ減量は大きな課題です。(北町五丁目町会)

●地域の美化活動を通して

昨年11月24日(日)、大野田小PTA(10地区)と連携し町内一斉清掃を実施しました。秋晴れのもと93名が参加し、通学路や千川上水沿いを見回り、子どもたちも積極的にごみ拾いや落ち葉掃きをしました。作業終了後には、「日頃の清掃を継続して町をきれいにしましょう」と呼びかけをし、お茶や菓子などのお土産を手にして解散となりました。また、後日冬の到来を前に、ふれあい広場の花壇を整備し、色とりどりの花を植えました。寒い冬の間も道行く人々に楽しんでもらえたらうれしいです。(緑町三丁目町会)

バス研修報告 ムーミンの物語の世界を楽しむ

運営協議会では、地域住民4団体を対象に、環境を中心とした施設などを訪問し、地域で親睦を深め学習するバス研修を年1回行っています。今年度は、令和6年9月29日(日)、埼玉県飯能市の「ムーミンバレーパーク・メッツァビレッジ」へ行きました。ここは森と湖の広がる豊かな自然の中に、ムーミン一家の暮らすムーミン屋敷や水浴び小屋や灯台など、ムーミンの物語を追体験できる施設や展示、豊富なお土産ショップなどがあるテーマパークです。コロナウイルス感染症の影響もおさまってきたため、前回より募集人数を増やし、大型バス2台で51名が参加し、ムーミンの物語の世界を楽しく散策しました。

編集後記

今号の巻頭は、能登の災害廃棄物を取り上げました。被災地の災害廃棄物や被災時の生活ごみは、復興を遅らせる要因ともなります。昨年末、運営協議会と市長との意見交換会でも災害時のごみ処理は話題になり、この視点は地域防災の大きな課題であると実感しました。(村井寿夫)

●防災は「隣近所の助け合い」から

阪神・淡路大震災から30年。今災害への備えの必要性があらためて叫ばれています。緑町パークタウンでは毎年2回の防災訓練を実施しています。在宅避難のために水や食料、トイレなど必要なものを自宅に備えることを呼びかけるとともに、いざという時に命を守るのは「隣近所の助け合い」として、全戸の「安否確認訓練」を実施。秋に実施した300食の炊き出し訓練も好評でした。20棟ある団地の各棟に防災委員・協力員さんをお願いして訓練を続けています。(武蔵野緑町パークタウン自治会)

●防災訓練とクリスマスリース作り

11月23日(土)の防災訓練には、約70名の住民が参加しました。武蔵野消防署にご協力をいただき、はしご車体験やAED実演、消火訓練や炊き出しなど災害を想定した訓練が行われました。

また12月22日(日)には手芸教室があり、かわいいクリスマスリースを作りました。最近転居していらした方々も行事に参加してくださり、新たな住民の親睦の輪が築かれています。(武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会)

令和6年度 活動報告

■令和6年

- 4/23 第258回 運営協議会会議
- 5/30 第259回 運営協議会会議
- 7/ 3 委員研修 参加18名
寄居バイオガスプラント(オリックス資源循環㈱)
- 8/ 2 第260回 運営協議会会議
- 9/26 第261回 運営協議会会議
- 9/29 バス研修 参加51名
ムーミンバレーパーク・メッツァビレッジ
- 9/30 「運営協議会だより」第85号発行
- 12/17 第262回 運営協議会会議・市長との意見交換会
- *委員勉強会
- 7/31 クリーンセンターの歴史
- 11/13 運営協議会の活動・施設建て替えとまちづくり

■令和7年

- 2/17、21、26、3/5、10、14
環境健康診断実施 申込者144名
- 2/20 第263回 運営協議会会議
- 3/31 「運営協議会だより」第86号発行

編集・発行／武蔵野クリーンセンター運営協議会

〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5

武蔵野クリーンセンター内

電話：0422-54-1221

●武蔵野市ホームページ

<https://www.city.musashino.lg.jp/>

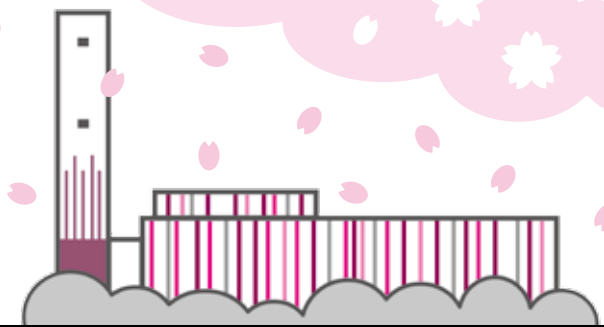
*この広報は、再生紙を使用しています。

CONTENTS

P 1…能登の災害廃棄物の受け入れ

P 2…運営協議会イベント

P 4…まちのできごと
バス研修報告 令和6年度活動報告



武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 86

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは

1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された周辺3地域4団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

能登の災害廃棄物の受け入れ

能登の災害廃棄物

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の被災地では、損壊家屋の解体・撤去に伴う約170万tもの大量の災害廃棄物の処理が石川県内で困難になり、8月に環境省及び石川県は東京都へ災害廃棄物処理の協力を依頼しました。東京23区及び多摩地区では9月末より順次災害廃棄物を受け入れています。

都が受け入れる対象の廃棄物は、石川県珠洲市と輪島市の可燃ごみ(木くずを含む)で、各市内で解体・分別され、アスベストなどの異物を除去し破碎した状態で金沢湊集積所に運ばれ異物がないか最終確認を経て、東京に鉄道輸送、荒川区の隅田川駅等を経由し各ごみ処理施設に運ばれます。

9月の運営協議会では、東京都の職員から災害廃棄物受け入れの経緯や環境対策などの説明があり、武蔵野市の受け入れについて協議し、全員一致で受け入れが決まりました。(注)

12月、東京都より武蔵野市にも正式に災害廃棄物の受入依頼が出ました。1月までに東京都全体で受け入れた災害廃棄物の量は約1,188t(廃プラスチック類は14%以内)で、期間は令和6年9月～令和8年3月の予定です。武蔵野市はその内40tを令和7年3月まで受け入れ予定で、1月から受け入れています。

施設で事故が起きたら

ごみ処理不能になる事態は他人事ではありません。災害以外にもごみ処理施設が事故などで稼働ができなくなることがあります。令和7年1月3日(金)、埼玉県川口市のごみ処理施設「朝日環境センター」のごみピット内で発火事故があり、電気系統やごみを運ぶクレーンなどが被害にあい、ごみ処理ができなくなりま

注：「武蔵野クリーンセンター操業に関する協定書」で市外のごみの受け入れの際には、運営協議会に報告し協議することが定められています。

した。そのため9日(木)と10日(金)の収集を停止する事態になりました。その間近隣の自治体や民間業者に委託し、13日(月)から収集を再開しました。川口市は市民にごみの減量・分別を呼びかけましたが、周知が行き届かず、さらに収集が遅れて、一部地域でごみが溢れたそうです。今後復旧には数ヶ月かかる見込みです。事故原因は不明ですが、誤って混入したりリチウムイオン電池やガスボンベなど発火の危険性があるものの可能性が推測されています。

他市との相互支援、いざという時のために

クリーンセンターでは、設備の整備をする際に焼却炉の運転を止めるため、他市と協定を結び定期的にお互いの可燃ごみを処理する相互支援を行っています。不燃ごみも、災害や事故の際にも迅速に対応できるよう少量ですが相互支援を行っています。

▶可燃ごみ

・ふじみ衛生組合(三鷹市・調布市)
年2回合計 600t

▶不燃ごみ

・野川クリーンセンター(小金井市) 年1回3t
・ふじみ衛生組合 年2回合計6t

令和6年12月9日ふじみ衛生組合で、不燃粗大ごみ処理施設及びボイラー設備の更新工事による影響でピット内の可燃ごみが増加したため、相互支援の協定に基づいてごみ処理緊急支援の要請が武蔵野市に出され、クリーンセンターでは12月10日～23日の土日を除く10日間に約480tの可燃ごみを受け入れました。また、多摩地域ごみ処理広域支援に基づき、立川市、柳泉園組合(清瀬市・東久留米市・西東京市)でも受け入れを実施しました。



会場を埋め尽くす観客で盛り上がった演奏会。

11月17日(日)、武蔵野グリーンセンター運営協議会のイベントは、環境フェスタとエコマルシェと同時開催され、天気にも恵まれた合同の催しに多くの観客で賑わいました。運営協議会は地元小学校の演奏会・地元野菜の販売・環境についての講演会とさまざまな内容の催しを行いました。

●ミニコンサート 市立大野田小学校 吹奏楽クラブ演奏会

エコre ゾート内の会場には、早くから演奏を楽しみにしている大勢の観客が集まりました。吹奏楽クラブのメンバーは、小学4・5・6年生です。

オープニングは『インヴィクタ序曲』。ファンファールが響きわたると、小刻みに打つドラムに流れるようなメロディが重なる展開に、わくわく感がふくらみます。

また、指揮者を見る真剣なまなざしがとても印象的で、演奏中の息づかいが伝わってくるようでした。

続いて『聖者の行進』『ケセラセラ(Mrs.GREEN APPLE)』『銀河鉄道999』『コパカバーナ』の全5曲が披露され、世代を問わず耳にしたことがある楽曲に合わせて、口ずさんだり体でリズムをとったり、会場はひとつになりました。

子どもたちの進行による挨拶や曲紹介で、コンサートは終始温かい雰囲気の中、アンコールの手拍子が湧いて、最後の演奏に会場は盛り上がりました。



吹奏楽クラブのメンバーは約60名。みんなも演奏会を楽しみにしていたそうです。

顧問の先生より

この度は、地域のみなさまの前で演奏する機会をいただき、児童はとても張り切って練習を重ねてまいりました。当日たくさんの方が演奏を聴いてくださる中、一生懸命、堂々と発表できたことで、大きな成長と自信を得ることができたと思います。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

●野菜販売 旬の地元野菜に行列

今年もエコre ゾート入口に、新鮮な野菜15種240点が並びました。大根、キャベツ、ブロッコリー、小松菜など大きくておいしそうなお野菜が100～250円と、とてもお買い得なお値段です。



会計もスムーズに進み、重い野菜のかごを持つ顔もうれしそうです。



並んだ野菜を眺めて「今日はおでんにしようかしら？」などの声も。

今回の販売は10時と11時からでした。

販売開始前から行列が出て、2回とも10分足らずで売り切れるほど大好評。ほとんどの方がエコバッグを持参です。後日「とてもおいしかった!」「買えてうれしかった」という感想もいただきました。

食料品の値上がりが相次ぎ、葉物野菜は高騰しています。地元の安全で新鮮な野菜を求めるみなさんの気持ちが伝わってきました。

●講演会 地球温暖化と気候変動はどこが違うの？

講師／三上 岳彦

成蹊気象観測所 所長

成蹊学園サステナビリティ教育研究センター 客員フェロー

昨年(2024年)夏の気温は、日本も世界も過去最高を記録したとの言葉を皮切りに、なぜ温暖化という現象が起きるのか、さまざまな事象が示されました。

1980年以降、温暖化が加速して、どんどん気温が上昇していること。「なぜ気温が上昇しているのか?」の疑問に対して、三上先生は「人口増加。人間活動の増加が大きく関与している」と話されました。

このままでは地球環境の大きなダメージに至ることへの懸念から、以下のことを提言されました。

●二酸化炭素(CO₂)の排出量を減らすこと

- ▶太陽光発電・風力発電・地熱発電を増加
- ▶化石燃料(石炭・石油・天然ガス)の削減、省エネ機器の導入
- ▶建物・交通の省エネ化
- ▶新規植樹・森林整備・都市緑化の促進 など

一人ひとりの生き方が厳しく問われるような講演内容で、終了後の参加者へのアンケート結果にも、有意義な内容だったとの声が寄せられました。

また、講演会の概論はていねいに語られましたが、「私たちは何をすべきかとの各論を、もっとたくさん聴きたかった」という感想もありました。

重要な内容の講演会で、もっと大勢の方々に聴いていただきたかったです。



地球温暖化と気候変動の違いやしくみが、写真や図を使ってわかりやすく解説されました。

三上岳彦 東京都立大学名誉教授・客員教授。成蹊学園サステナビリティ教育研究センター 客員フェロー 2023年度より、成蹊気象観測所所長を兼任。専門は、気候変動・都市気候。主な著書に、『都市型集中豪雨はなぜ起こる』(技術評論社)、『TIME 地球温暖化』(緑書房)などがある。

